

会 議 記 録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 22年 1月 19日(火曜日)	開催時刻	13時 30分から 14時 24分
会議名	丸子地域協議会(平成 21年度第 10回)		
出席委員	浅倉委員、生田委員、片桐委員、木下委員、倉沢委員、笹井委員、笹沢委員、滝沢(俊)委員、滝沢(浩)委員、武井委員、竹花委員、成澤(啓)委員、成澤(み)委員、本間委員、宮坂委員、村松委員 【欠席】大森委員、甲田委員、土屋委員、柳原委員		
市側出席者	関丸子地域自治センター長、佐藤センター次長兼地域振興課長、大平地域政策担当係長、中村地域政策担当		

会議次第

- 1 開会(佐藤センター次長)
- 2 会長あいさつ(片桐会長)

新しい年を迎えられ、それぞれ目標をもってスタートを切られたことと思います。丸子地域協議会も本日の会議を含めあと 3回ということになりました。最初の 2年間は基礎づくりができればということでスタートし試行錯誤を続けながら本日まで来ましたが、最近になり、これからの地域内分権を目指す中で、地域協議会の重要性もだいぶ見えてきましたし、また皆さんに課題について検討いただき意見書という形になりました。4月からの新しい委員の皆さんにしっかりとバトンタッチできるよう、引続き皆さんにご協力をお願いします。今年もよろしくお願いいたします。

3 報告事項

(1)上田市建築物における駐車施設の附置等に関する条例の公布について(建築指導課)

・条例の公布についての報告。

平成 20年度第 9回丸子地域協議会、平成 21年度第 4回丸子地域協議会において報告後、丸子地域内の関係施設、関係自治会長等への説明を経て、昨年 12月の定例市議会において審議・議決された。12月 18日に条例が公布され、今後 6ヶ月の周知期間を経て、平成 22年 7月 1日から施行される。広報うえだ 2月 1日号に掲載し周知を図る。

資料 1: 上田市建築物における駐車施設の附置等に関する条例の公布について

4 . 調査研究事項

(1) 全体会議

地域協議会のあり方に関する意見書について(事務局)

・地域協議会のあり方に関する意見書について検討。

過去 2回、原文のまま審議いただいたものを意見書の様式に体裁を整えた。重要な事項

なので、ご意見をいただき完成させていきたい。意見書(案)について朗読。

資料 2: 協議会のあり方について意見書(案)

・主な質疑の内容

(委員)非常にわかりやすくまとまっていて良い。「自治会と地域協議会との役割や機能について」議員定数が減っていき、議員の地域代表という考え方が薄れてきている。地域の声を聞いていると、地域協議会が地元代表という考え方、地域の意見をまとめるという考え方が強いのではないかと感じている。そういった観点からも、議会と地域協議会との役割や機能について、地域協議会で議論していく必要があるのではないか。そういった部分も載せていただいたほうが良いのではないか。「終わりに」という文章中、「地域協議会が、地域内の意見や要望、世論といったものを地域の中で集約する」ということで、「団体」にかかるのではないということを確認したい。

(事務局) についてはそのとおり。

(委員)地域協議会が、地域の中で集約し団体を支えていくという 2つのことをする唯一の団体ということで、わかりやすい文章が良いと思った。

(事務局) については、協議会自体が市の審議会等として位置づけられているので、あくまで市長から出された諮問、あるいは意見を求められたことについて協議会として考えていく、その上に立って必要であれば協議会としての対応になるかと思うので、市長に対して要望を上げていくという視点ではない。

(委員)そういう意向については引き継ぎしていただければありがたい。

(委員)「3地域予算の活用について」「各項目について行政の積極的な支援を要望します」とあるが、どういう要望するかが薄い。地域予算は4地域自治センターとの関わりがある。関わりをもう少し表現しておいたほうが良いと感じる。

(事務局)「3地域予算」の課題を(数字)書きで提示しているが、いずれについても地域予算だけでできる話ではない。行政との関わりを持ちながら地域的課題も掘り起こしながら解決策を探っていくという手続きになる、その過程の中で積極的な支援をとということを付け加えてある。そして地域協議会と丸子地域自治センター長で、一定額以内の事業について、事業採択できる仕組みを合わせて考えていきたいという 2段重ねの提案にはなっている。具体的な事業化が進んでいく中で、明確な行政との関係が出来てくるのではないか。

(委員)全体では市民という言葉を使っているが、1ページの3行目には住民という言葉を使っている。統一して市民と変えたほうが良いのではないか。地域市民という言葉は聞かないが。「4地域自治センターのあり方について」上から4行目、「事業採択できるような仕組みがあれば」とあるが非常に弱い。例えば「仕組みを構築することにより」と変えたらどうか。

(事務局) については、そう変えていきたい。

(委員) について、それぞれの地域に地域協議会があるので、「地域住民の意見を聞き」でもよいのではないか。

(事務局) については、全体の文章を見ながら検討したい。

(委員) 我々が協議したことすべて載っているのでこの内容で結構。あとは事務局に一任して進めていただきたい。次にはもう出したという段階にお願いしたい。

(会長) この文章でおおかた良いようなので、この意見書の取扱いについて、市長へ提出するのが良いか、次期地域協議会へ引き継いでいくのが良いか。

(委員) 2期の我々が協議した経過があるから、2期の地域協議会として市長へ出していたきたい。

(会長) 市長へ意見書を提出するというのでいいですか。

委員から「いいです」という声あり。

(会長) それでは市長へ提出するというので決めさせていただきます。

(事務局) 提出については、市長と会長の日程で調整する。

決定事項等

・2期丸子地域協議会の意見書として会長から市長に提出する。

わがまち魅力アップ応援事業の審査方法について(事務局)

・わがまち魅力アップ応援事業の審査方法(丸子地域案)について提案。

前回、委員から「採用・不採用の基準をはっきりさせておかないといけないのではないか。」という意見をいただき、審査方法について丸子地域の対応案として資料を作成したので、検討をお願いしたい。申込み時に、チェック表により申し込む団体自ら、基準外・他制度の補助を受けているかどうかなどを確認のうえ申し込んでいただく。これにより以前に他制度の補助を受けている団体や、同一年度に他の補助制度の申請をしている団体は、申請することはできるが審査の段階で優先順位を考えるとというもの。資料2ページ「プレゼン資料」のとおり、5項目の選考基準について団体の考えを事前に提出していただく。審査では、資料3ページの選考調書を使用して審査をしていただく。プレゼン選考会では、各団体から事業の一番のセールスポイントのみを述べてもらい、時間の短縮をはかり、質問時間を多くとりたい。2月19日に申込締切、2/26開催の地域協議会で、出来る限り現地のある事業について現地調査を実施する。(A)~(C)の区分に分けて評価したらどうか。(A)地域課題を解決する事業。(B)地域的・世代的に広がる事業。(C)観光的等に脚光をうける事業。丸子地域住民提案型事業からの丸子地域の考え方として、(A)及び(B)で継続性を優先して評価したらどうか。丸子地域の採択基準を明確にする必要があるが、予算あつての採択のため、申請状況により、事業内容等を勘案のうえ採択するというもの。資料の5ページ・平成21年度に事業採択されていて平成22年度に申請されるであろう事業を掲載(継続事業)。縦に網をかけてあるところが来年度に予定されている事業。金額の内容は精査する必要はあるが、合計で継続事業だけで530万7千円。丸子地域の配当予算が440万円で、持寄分基金から230万円を取崩し上乗せし、丸子地域の予算の合計は670万円の予定。継続事業を差し引くと、新規事業として140万円の予算。例えばすべての事業の採点の点数が良かったとしても、予

算に限りがあるため、そのすべての事業を採択することはできない。申請書が提出された時点で、次の3通りの方法のいずれかで採択することが考えられる。(1)点数が低い団体から不採択とする。(2)基準の10点以上は採択としたうえで、全体の補助金額を抑える。(3)平均点を基準とする。継続事業も内容の精査は必要で、現地調査と実績報告会を開催し、事業の検証・指導、意見交換を行う。現地調査は、次回の協議会2月26日の午後1時30分から、実績報告会は3月19日の午後1時30分から予定。3月12日に審査会、19日に実績報告会と続くがよろしく願いたい。

難しいのは、内容の良し悪しではなくて予算に限りがあるということ。今まで多くの団体を事業採択し交付決定しているが、その結果、団体については2年、自治会については5年積み重ねられていて、次年度に使える金額が限られてくる。来年度新規で使える予算が140万円までで、その中で事業を採択する必要がある。良い事業が多く出てきた場合、予算額の中で要求どおりにならないけれど採択していくのか、あるいは要求額を満たしていくには採択事業を厳しくして、限られたところにしか事業づけができない、ということがありうる。まだいくつかの団体が出てくるのかわからないし、継続事業を申請される皆さんも満額申請してくるかわからない段階だが、事前に推測しながら、今日の資料を作成した。わがまち魅力アップ応援事業は全市にわたって実施している事業で、地域の取組みが少ないところからは回してもらって今まで丸子については上乘せして採択してきている。3年経過し、ほかの地域でも手を挙げる団体が増えてきている。そちらからお金を回すことも難しくなっている。場合によっては140万円しか使えないということも考えられ、厳しい審査になるのではないかと想定している。

資料3: わがまち魅力アップ応援事業の審査方法について(丸子地域案)

主な質疑応答等

(委員) 今まで2年採択された事業あるが、必ずしも採択したからといってそのまま払うのではなく、もっと細かく検証して減額することも可能ではないか。実績報告会でほとんど何もやらなかったという発表もあったと聞いている。そういうところはカットすることも必要ではないか。そこまで踏み込まないと良い事業が残ってこない。もう一つは、例えば薄くしておいても、他地域から回ってくれば新たに配分ということができるのでは。

(委員) これまで継続してきている事業が既得権的に権利を継続するというものではまずい。良く取り組んでいるところにはきちっと支援して予算をつけてやるということは必要だが、新規事業の手当てが難しくなってしまうということがあるので、やはり継続事業については、状況を良く精査するということが非常に重要なことではないか。

(委員) 資料 については、私の考えとは全く違う。平均点去年は13.6点。平均点設定というのは相対的なことで高い団体があると平均点が高くなる。申請した個々の団体を評価して、点数何点以上は採用ということやっていただきたい。予算については限りがあるので、どのくらい申請があるかわからないが、予算の範囲内で申請額を8割、7割にすると、良い団体採用していただきたい。資料の3ページに選考調書で3というのは、だいた

い概ね評価される中心基準で、全部3にすると15点になる。少しは評価する2が2つあると13点(3×3+2×2)で、全部2ではあまり少ししか期待されなくて10点。13点を基準としてそれ以上は採用し、金額が足りなければ全体に6割でも7割でも予算規模にあったようにするというところでどうか。審査員が13点以上で採用するという考えのもとに個々の団体を点数評価、13点は採用しても良い12点11点だったらこれは不採用だなという気持ちでやっていただければ良いのではないか。

(委員) 昨年は10点基準ということだったが、それをクリアしているにもかかわらず落としたのがおかしい。ここだと決めたものは崩さないで全部通すこと、点数は何点でも良いと思う。

(委員) 落ちた人に説明するときその点数の意味が説明できればそれで良いと思う。もう一つは、これから出てくる申請の数によって、たくさん出た場合にどうするかということも合わせて考えて、そこまで決めておかないとまずいのではないか。

(委員) ボーダーラインの点数を決めるのも大事だと思うが、たくさん出た場合に、ギリギリでボーダーを超えた場合と満点で越えたものも同じ扱いになってしまって、8割や5割になってしまう、同じ条件になってしまうのはあまり良くないと思う。ボーダーを越えた中でも、ある程度のランク付けというのが若干なければ、もし数が多くなった場合は不公平になるのではないか、何のための点数づけかなと思う。

(会長) 2月19日に締め切り、2月26日に次回の地域協議会を予定しているので、もう一度そこでボーダーラインを決定させていただきたい。応募数によって変わってくる。

(委員) 3ページ「選考調書」を自分で自己評価させてくれれば良いのではないか。

(事務局) 2ページ「プレゼンテーション資料」が申請する団体に書いてきてもらうもの。3ページ「選考調書」は委員が判断するもの。

(委員) 丸子地域で採択されなくて他地域で同じような事業が採択されているというのがあったが、そう言われることのないようにできないか。

(会長) そういうことのないように方向付けをしていきたい。

(委員) 予算が厳しくなってしまったから抑えましょうということがどうして出てくるか。

(会長) 1年で終わる事業だったらそれで良いが、2年、5年と継続しているから、その分で予算を取られてしまう。予算が減らされたということではない。

(事務局) もう一つは、去年までは丸子地域外の取組み事業が少なかったのを誘導できたが、それぞれの地域で活発にやり始めたので回してもらえるお金が少なくなっている。

決定事項等

- ・来月の地域協議会で検討していく。

カネボウ食堂棟活用検討専門部会の報告(部会長)

- ・専門部会の検討状況の報告。
- 今後食堂棟を利用する可能性がありそうな組織・団体に対してアンケートを取るとい

とで、どういう組織にそのアンケートを求めたらよいか委員の中で出し合い団体を拾った。アンケートの案文も出来上がっていて近々送付することになる。できたら2月中旬を目途にアンケートの回収を行い、3月までに状況の説明とりあえずどんな見通しがあるかという状況の説明のところまで今期・我々の地域協議会の中で取りまとめを行って、次期に申し渡しをしていきたい。

(2) 専門部会

- ・地域協議会終了後に開催。第2会議室にて

5. その他

- ・次回の日程について（事務局）

- ・次回地域協議会の日程

2月26日（金曜日）午後1時30分から 現地調査をした後に地域協議会を予定。時間がかかる予定。

- ・その他（事務局）

- ・次期委員の選出について

（事務局）委員の選出についての課題は、女性委員の登用率40%達成。女性委員にお残りいただき、その方策についてご相談させていただきたい。

- ・依田川リバーフロント市民協働事業「市民会議」の開催

（委員）2月18日（木曜日）午後5時から丸子地域自治センターで行う。地域協議会委員の皆さんにも全員出席していただきたい。また「川の絵・川の写真展」を1階ロビーで開催中。ぜひ見ていただきたい。

6. 閉会

- ・引き続き分散会を開催。

- ・地域協議会終了後、カネボウ食堂棟活用検討専門部会（第2会議室）引続き検討。午後3時30分を目安に流れ解散。